

「津波防災まちづくりの推進に向けた協定」締結

町は、独立行政法人都市再生機構と5月26日(水)、「津波防災まちづくりの推進に向けた協定」の調印式をオンラインで実施し、協定を締結しました。

今回の協定では、事前復興まちづくり方針の検討や浸水想定区域にある宅地移転のための高台造成、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進に関する事項を連携して取り組んでいくことが確認されました。



松本町長(左)と田中理事・支社長(右)

「本締結を契機に、黒潮町のまちづくりに貢献できるような連携を図っていききたい」と話しました。

町内小学生が「Tシャツアート展」出展作品を青い旗で制作

町内7校の小学4年生(3年生を含む学校もあり)が6月10日(木)～29日(火)までの期間、今秋開催の「Tシャツアート展」へ出展するTシャツの制作を行いました。

この事業は毎年、子どもたちがTシャツを制作し、イベントでの展示後、さらに海外で展示を行い、自分の手元に戻ってくるという内容で、砂浜美術館や国際的な理解を深めることを目的に実施されています。



イラストを描く南郷小児童

キヨウやグリーンレモン、クジラ、Tシャツなどを旗に載せ、思いの作品を仕上げました。

福祉避難所開設・運営訓練

地震や豪雨などの災害時を想定した「黒潮町福祉避難所開設・運営訓練」が6月19日(土)、拳ノ川地区にある保健福祉センターこぶし、高齢者生活福祉センターで実施されました。

この訓練は、今年3月に続き2回目の実施で、各機関との連携をより強固なものにすること、また、災害時に特別な配慮が必要となる要配慮者の支援をより円滑に行えるようにすることを目的に行われています。



ベッドへの移動を試す参加者

当日は、地域住民約20名のほか、社会福祉協議会、役場職員など計60名が参加し、一般避難所における

資機材の確認や福祉避難所の開設、環境の確認、浄水器の活用訓練が行われ、参加者からは、「車椅子ではエレベーターが狭い」「その人が抱えている問題によって快適なベッドの高さは違う」「浄水器の活用訓練のように、災害時にも機材を躊躇なく使用できるように今後も教えてもらいたい」などの意見があがりました。

親子で参加した浜田佐恵さん(1生)さんは、「こういった訓練でも都度色々なことに気づくと思う。積み重ねていくことで、少しでも快適な避難空間にしていくことができたら」と話しました。

◆黒潮町指定福祉避難所

令和3年6月19日現在

事業所名	
1	特別養護老人ホームかしま荘
2	特別養護老人ホームシーサイドホーム
3	障害者支援施設大方誠心園
4	障害者支援施設大方生華園
5	介護医療院ことぶき
6	土佐七郷会、あったかふれあいセンターにしきの広場
7	高齢者生活福祉センター

◆福祉避難所とは

高齢者や障害のある方など、一般避難所では生活に支障がある方を対象に特別な配慮がされた施設です。